



陸の水

==== No.68 =====

日本陸水学会東海支部会

ニュースレター (2015 年 3 月 13 日)

発行：日本陸水学会東海支部会

連絡先：〒501-6021 岐阜県各務原市

川島笠田町官有地無番地

(独) 土木研究所 自然共生研究センター

小野田 幸生

Tel: 0586-89-6036、Fax: 0586-89-6039

E-mail: onodayukio@yahoo.co.jp

目次

- 日本陸水学会東海支部会 第 17 回研究発表会を振り返って (p.1-3)
- 東海大学 海洋科学博物館・自然史博物館の見学会報告 (p.4,5)
- 2015 年度 日本陸水学会東海支部会 一般研究助成のご案内 (p.6,7)
- 第 27 回 東海陸水談話会のご案内 (p.7)
- 第 18 回総会における「陸の水」論文集に関する報告事項と審議事項の結果について (p.8,9)
- 「陸の水」論文集への投稿について (p.9)
- 2014 年度日本陸水学会東海支部会の活動報告 (p.10-12)
- 退任幹事のご挨拶 (p.13)
- 会費納入について (p.14)
- 会費の納入方法について (p.14,15)
- 入会および退会の手続きについて (p.15)
- 会員の現状 (p.15)
- 編集後記 (p. 15)

日本陸水学会東海支部会 第 17 回研究発表会を振り返って

(独) 土木研究所・自然共生研究センター 小野田 幸生

2015 年 2 月 21-22 日の 2 日間、静岡県静岡市清水区三保にある東海大学社会教育センター「三保研修館」において (写真 1)、日本陸水学会東海支部会第 17 回研究発表会が開催されました。ここしばらく、島での開催が続いたのですが、今回は少し陸へと回帰し、「半島」での開催となりました。参加者は延べ 57 名に上り、計 26 件の研究発表が行われました。

今回の研究発表で特筆すべきは、研究助成を受けた高校生のみなさんによる研究発表が 2 件あったことです (写真 2,3 次頁参照)。



写真 1. 会場の「三保研修館」
写真は HP より

1 件目は、静岡県立富士宮西高等学校科学部の金子雄太さん・若狭和樹さん・宇佐美恭兵さん・篠原遼太さん・佐野恵子さん・木本和代さんによる「富士山西南麓に生息するカイミジンコ（甲殻類）の分布および生態調査」の研究発表でした（写真 2）。学校の周辺の水田など多くの地点でカイミジンコの種類を調べ、水環境との関連を考察したものでした。カイミジンコの乾燥耐性に着目した仮説が提示され、丁寧な構成の研究となりました。さらなる実験などを追加することで、カイミジンコの分布を決定する要因の解明に寄与できそうな面白い研究でした。

2 件目は、静岡県立浜松大平台高等学校の川原拓実さん・大場智之さん・遠山真奈さん・平井莉乃さん・平尾美樹さん・望月啓祐さん・濱本彪さん・加藤千夏さん・瀧崎沙菜さん・藤原慧麻さん・長野裕紀さんによる「佐鳴湖にリンが多いのはなぜか その原因について」の研究発表でした（写真 3）。佐鳴湖の透明度を改善するために流入河川を通じたリンの供給の実態に迫ろうとする研究でした。リン濃度の日変動を一時間ごとに流程に沿って調べた地道で迫力のあるデータが示されました。リンの流入源についてもいくつかの仮説が提示されていたので、今後も調査を継続的に実施することで、佐鳴湖へのリンの流入実態が解明されればと思います。

高校生以外の発表でも、学生さんによるものが多く、若さあふれる研究発表会となりました（写真 4,5,6）。卒論や修論などの成果と思われるものが多く、地道なデータ収集に基づいた力強い発表が多かったと思います。会場で発表練習をする学生さんもいて、スライドだけでなく発表自体にも情熱と誠意が感じられました。初心は忘れてはいけないと自省しました。

研究発表の分野は、水文水質、水収支、生物、環境計測手法、環境教育など多岐にわたり、陸水を対象とした研究の広さを改めて確認できました。この研究発表会では、自分の専門分野以外の研究内容に触れることができるので、幅広い分野について勉強することができると思います。討議についても、思いもよらない視点からの質疑応答があり、新鮮な印象を受けました。例年思うことですが、普段の研究室や研究所でのゼミなどとは

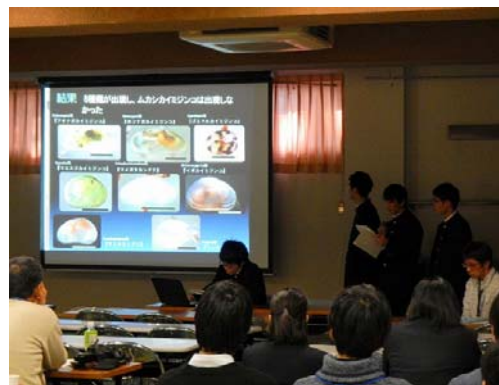


写真 2. 静岡県立富士宮西高等学校科学部の研究発表の様子

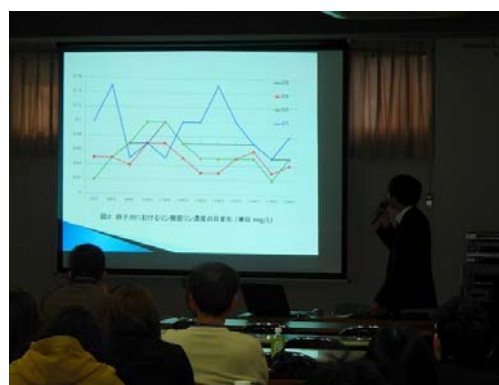


写真 3. 静岡県立浜松大平台高等学校の研究発表の様子



写真 4. 研究発表会の様子



写真 5. 発表の一コマ（その 1）

異なる雰囲気があり、貴重な体験となりました。

夕食はビュッフェスタイルで、お酒もすすみました。発表会とは異なるリラックスした雰囲気、参加者の間での研究談議なども聞かれました（写真 7）。夕食後は部屋に会場を移しての懇親会となりました。入手困難な日本酒や差し入れのワインなどを片手に、楽しい交流の時間が夜遅くまで続きました。

今回の研究発表会も多くの方に支えられて実施できました。立派な要旨集の作成には谷口先生と三重大大学の学生さん、会場や飲み物等の手配には岡田直己さんや戸田先生、当日の司会進行には新実智嗣さんなど多くの方に協力を頂きました。また、参加者の方には興味深い研究成果を発表頂き、討議も大変盛り上がりしました。関係者の皆さまに感謝いたします。

最後に、発表会場で撮影した集合写真を掲載し（写真 8）、研究発表会の報告を終わります。



写真 6. 発表の一コマ（その 2）



写真 7. お酒を飲みながらの研究談議



写真 8. 集合写真（発表会場にて）

本報告をするにあたり、写真を提供していただきました、中村早耶香さん、新実智嗣さん、野崎健太郎さん、田代喬さんに深謝いたします。

東海大学 海洋科学博物館・自然史博物館の見学会報告

(独) 土木研究所・自然共生研究センター 小野田 幸生

三保研修館で開催された研究発表会の後、近くにある東海大学海洋科学博物館（水族館）と東海大学自然史博物館を見学しました。見学希望者が30名ほどと多かったため、15名程度の2班に分かれての見学となりました。

まずは、水族館から。水族館といえば恒例となっている「バックヤード ツアー」ということで、今回も入口からすぐの巨大水槽（写真1）を横目に、関係者専用の扉をくぐり、水族館の裏側を見させていただきました。

巨大水槽の上部（写真2）に行くために、階段を登ったのですが、この階段の所が吹き抜けになっていて、この中には魚を運搬するための機械が設置されていました（写真3）。この機械を使って、

「UFO キャッチャー」のように水槽ごと上部から魚を入れるとのことでした。

展示水槽に入れる前には別の水槽で餌付けのトレーニングをし、展示魚を食害しないようにするそうです。巨大水槽の「穏やかな」生態系がこのような努力で再現されているかと思うと、見方も変わってきます。

クマノミの人工繁殖に日本で初めて成功した水族館とのことで、バックヤードではたくさんの種類のクマノミが飼われていました（写真4）。

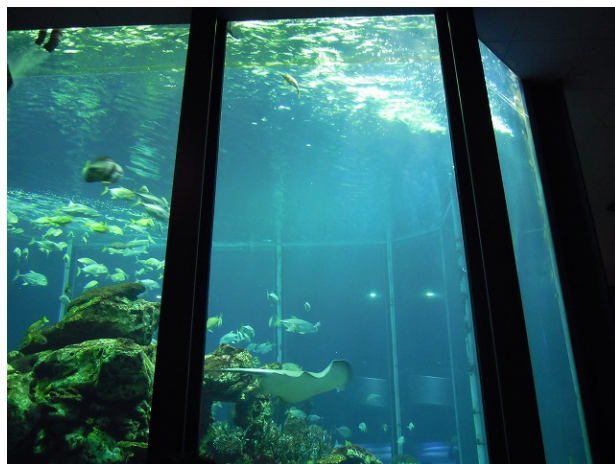


写真 1. 入ってすぐの巨大水槽



写真 2. 巨大水槽の上部



写真 4. 飼育されていたクマノミの一部



写真 3. 水槽を吊り上げ巨大水槽に魚を移す機械. (写真2の上部の黄色のレールと写真3の黄色のレールは繋がっている.)

標本管理も充実しており、標本用の建物も併設されていました(写真5)。固定液のお風呂に入っているかのようなサメ類には驚きでした(写真6)。

続いて、自然史博物館に。「バックヤード」は無いので、通常の順路に沿って解説していただきました。

最初に、爬虫類と両生類のアゴの開き方を比較した展示を見ました。爬虫類は下アゴを引き上げる強い筋肉がおさまる穴があるため、目の後ろに穴が2つあるとのことでした。その後に出迎えてくれたのが、大きな恐竜の化石のレプリカでした(写真7)。確かに目の後ろに穴が2つあるのが確認できます。何かに焦点を絞ってみると違った発見ができると実感しました。

地元の静岡県其自然についての展示もありました。生き物の生態の展示では、木だけでなく葉っぱも本物を加工しているという徹底ぶりでした。また富士山の生い立ちや地質などは、最新のプロジェクションマッピングで説明されており(写真9)、大変分かりやすかったです。

末筆ながら、丁寧な案内と解説をして頂いた職員の方々に深謝いたします。また、写真を提供頂いた新実智嗣さん、戸田三津夫さん、野崎健太郎さんに感謝いたします。



写真9. 富士山の立体模型を用いたプロジェクションマッピング



写真5. 建物全体が標本室に。



写真6. 固定液の「お風呂」に浸かるサメ類



写真7. 恐竜の化石のレプリカ



写真8. 実物にこだわった展示

2015 年度 日本陸水学会東海支部会 一般研究助成のご案内

日本陸水学会東海支部会では、以下の要領にて、2015 年度の研究助成を公募いたします。ふるってご応募ください。

1. 助成対象

川、溜池、内湾（干潟）、地下水など陸水環境の調査・研究を行っている、あるいは行う意志をもつ個人またはグループが対象です。分野は自然科学、人文社会科学を問いません。また、陸水環境を対象とした環境教育の実践および教材研究も助成対象とします。応募資格は支部会員に限定いたしません。

選考にあたっては、研究機関（小学校、中学校、高等学校は含まない）に所属していない個人・グループを優先的に助成する方針ですが、研究機関に所属する研究者、学生も応募できるものとします。また、東海地区（愛知、岐阜、三重、静岡）に在住、あるいは通勤・通学の方を優先します。営利を目的とする研究には助成いたしません。大学生、大学院生の方は、卒業論文研究、修士・博士論文研究の一部内容について申請しても構いません。

2. 成果の公表

助成後 1 年以内に支部会の研究発表会あるいはニュースレター紙上にて成果を公表して頂きます。

3. 助成金額

予算総額 15 万円以内で 5 件以内の助成を行います。

4. 応募書類

以下の項目を含んだ応募書類（A4 用紙、様式自由）を作成してください。

- 1) 研究題目
- 2) 助成を受けようとする個人の氏名またはグループ名
- 3) 助成を受けて実施しようとする調査・研究課題の内容（1000-1200 字程度）
- 4) 助成金の執行予算案（項目ごとに千円単位で、総額 5 万円程度以内で。
なお、減額して支給する場合があります。）
例：用品費（消耗品含む）、調査旅費（成果発表のための学会・研究会参加旅費を含めて良い）、謝金（アルバイト代）など。
- 5) 個人またはグループ代表者の連絡先（電子メールがあればアドレス明記のこと）

5. 応募方法と応募先

下記まで電子メールでお申し込みください。

静岡大学大学院工学研究科 内 日本陸水学会東海支部会 戸田三津夫 宛 E-mail: tmtoda@ipc.shizuoka.ac.jp

6. 応募締切

2015 年 5 月 2 日（土）消印有効

7. 結果

助成先審査委員会で審査を行い、審査結果を応募個人またはグループ代表者にご連絡いたします。採択予定者には、研究助成金の交付に必要な書類に必要事項をご記入いただき、その内容と合わせて研究助成先の結果を「陸の水」で発表いたします。

第 27 回 東海陸水談話会のご案内

今年度から新しく始まる「社会貢献」としての研究活動に関する談話会となっています。非会員の方の参加も歓迎いたしますので、お誘い合わせの上奮ってご参加ください。

■ 講演タイトル「2014 年 9 月 27 日御嶽山噴火が水環境に及ぼす影響」

■ 話題提供（予定）

- ①趣旨説明：谷口 智雅（三重大学）
- ②御嶽山噴火とその影響に関する既往知見：田代 喬（名古屋大学）
- ③水質と付着藻の関連：野崎 健太郎（相山女学園大学）
- ④濁水が魚類に及ぼす影響：小野田 幸生（土木研究所自然共生研究センター）
- ⑤河床環境と水生生物群集の関連：田代 喬（名古屋大学）

■ 日時：平成 27 年 4 月 20 日（月） 18：30～20：00

（終了時刻は、目安です）

■ 場所：名古屋大学 減災館

住所：〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学減災館

HP：http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?page_id=27（アクセス）

■ 料金：無料

■ お問合せ先：

田代 喬（ttashiro@nagoya-u.jp）

今後の談話会の予定

第 28 回以降の談話会として、ヨーロッパの自然再生事業の紹介、海上の森センターのフィールド紹介などを考えております。講演題目や講演希望などがございましたら、ご提案いただければ幸いです。



第 18 回総会における

「陸の水」論文集に関する報告事項と審議事項の結果

「陸の水」論文集 2014/2015 年 編集委員長，梶山女学園大学教育学部
野崎健太郎

1. 報告事項

1-1. 論文集 2014 年（64 巻）の発行

2014 年 7 月 30 日に発行しました。内訳は、論文 2 本、資料 3 本、意見 1 本、特集 3 本、書評で、総頁数は 66 でした。

1-2. 大学図書館への寄贈

以下 7 館へ論文集 2010、2011、2012、2013、2014 年の 5 冊を寄贈しました。

1) 名古屋大学工学部土木系図書室、2) 名古屋大学生命農学図書室、3) 静岡大学図書館浜松分館、4) 三重大学図書館、5) 三重大学時文学部地誌系資料室、6) 京都大学生態学研究センター図書室、7) 筑波大学中央図書館

1-3. バックナンバー電子版

2010～2014 年の全論文を PDF ファイルで保存しました。2013 年度分は web site で公開済みです。

1-4. 論文集 2015 年の編集委員会

野崎健太郎（編集委員長）、石田典子、松本嘉孝、村上哲生、村瀬潤、小野田幸生、宗宮弘明、谷口義則、田代喬、戸田三津夫、内田臣一、八木明彦、山本敏哉

2. 審議事項

2-1. 投稿期間と発行時期の変更（承認）

論文集 2015 年より、原稿の投稿期間を 3 月末日、発行を 7 月とすることが承認されました。これまでの実情から会員が原稿執筆や査読に取り組めるのは年末年始～3 月であり、年度内の発行は難しいためです。

2-2. 論文集公開のための独自 web site の充実（承認）

昨年から試験的に論文集の web site を開設しました。ただし、容量の問題もあったので、CiNii への転換を模索しました。しかし、CiNii の運営が終結することになったため、今後も独自 web site で公開することになりました。

2-3. 学術機関リポジトリへの対応（承認）

掲載論文は発行 1 年後に、著者に無料で PDF ファイルを配布しています。

研究機関に所属する会員には、機関リポジトリへの積極的な登録を進めていただきたいと思います。

そこで、論文集の投稿規定の 10 に下線部の記述を追加します。

「10. 原稿の著作権：掲載された原稿の著作権は、日本陸水学会東海支部会に属する。ただし発行から 1 年を経た後、著者が自身の原稿に限り、web site にて公開することおよび論文 PDF ファイルを配布することを認める。」

2-4. 報文の区分名称の変更（承認）

投稿規定の「2. 報文の種類と扱う内容」では、「論文（Article）」、「資料（Regional Report）」、「意見（Opinion）」の 3 種類が設定されています。この内、資料（Regional Report）の名称を、報告（Report）に変更します。

近年、出版された論文の根拠を保證するデータペーパー（Data Paper）という存在が注目されてきています。これは正に資料（Data）になります。一方、陸の水論文集の資料は、それ自体が独立の結果を報告しているものです。これらの混同を避けるために、貴重な結果の報告（Report）という名称に変更します。

上記 2-3、2-4 は投稿規定の改正となりますので、投稿規定の文末に、「本規定の改正は、2015 年 2 月 21 日より施行する。」との一文を挿入します。

「陸の水」論文集への投稿について

上記の通り、第 18 回総会での審議を経て、論文集 2015 年の原稿は 3 月末日までの投稿となりました。現在、投稿を考えておられる会員の方は、至急、編集委員長（野崎健太郎：ken@sugiyama-u.ac.jp）まで投稿の意思表示のご連絡をお願いいたします。

会員の皆様の投稿をお待ちしております。

野崎健太郎（編集委員長， 梶山女学園大学教育学部）

〒464-8662 名古屋市千種区 星が丘元町 17-3

梶山女学園大学教育学部

E-mail : ken@sugiyama-u.ac.jp

2014 年度日本陸水学会東海支部会の活動報告

第 18 回となる総会が、2 月 21 日研究発表会 1 日目の夕刻に開催されました。担当者から事業・会計等について説明があり、審議・承認されました。

・事業実施報告

昨年度の第 17 回総会において承認された事業内容（「当初計画」）と今年度の事業実施状況を次の表にて報告いたします。

活動項目	当初計画	実施状況
ニュースレター発行	年間 4 号	3 月 (No.63)、7 月 (No.65)、11 月 (No.66)、12 月 (No.67) に発行。電子版でも配信。 ※ No.64 は論文集
論文集発行	年間 1 号	陸の水論文集 2014 (陸の水 No.64 に該当) を 7 月に発行
サマースクール	夏 1 回実施	2014 年 8 月 30 日、8 月 31 日に琵琶湖周辺 (和田打川、もくもくの里、琵琶湖博物館) で実施。 ※陸の水 No. 66 に報告記事掲載
談話会	年 2 回実施	■ 第25回談話会 4/20 (日) 13:30~16:00 「水族館における淡水生物の飼育と活動」 池谷幸樹 氏 (アクア・トトぎふ) ※陸の水No.65に報告記事掲載 ■ 第26回談話会 6/21 (日) 13:00~16:00 「赤津研究林から生態水文学を考える」 蔵治光一郎 氏 (東京大学生態水文学研究所 所長) ※陸の水No.65に報告記事掲載
見学会	年 2 回実施	談話会に合わせて実施 ■ アクア・トトぎふのバックヤード (4/20) ■ 東京大学生態水文学研究所の赤津研究林 (6/21) ■ 東海大学海洋科学博物館 (2/22 に実施)
助成金		2 件 (総額 15 万円) の助成。 申請総数 8 件 (総額: 79 万 3924 円) に対し、 9 名の審査委員の審査をもとに決定
学会公式 HP		http://island.geocities.jp/limno_tokai/index.html に開設。活動状況・予定など随時更新中。
総会・研究発表会	2 月に実施	2015 年 2 月 21、22 日に実施予定 (静岡県三保にて)。

教科書販売：	・身近な水の環境科学 ・測定・実習編	・1冊定価 2,600 円(税別)のところ、2,300 円(著者割引相当)で 15 冊販売。 ・1冊定価 2,700 円(税別)のところ、2,500 円で 38 冊販売。
--------	-----------------------	--

・予算決算書

本年（2014 年）の収支の状況を以下の通り、ご報告いたします。

【収入】

費目	予算	決算	備考
前年度繰り越し金	630,773	630,773	
会費収入	225,000	135,000	一般 71、学生 1、家族 2 過年度分会費収入も含む
雑収入	150,000	698,674	論文集別刷代 284,136 円、教科書 39 冊 97,080 円、書籍印税、サマースクール支 払い端数など
寄付金	0	0	
利息	10	48	
総計	1,089,783	1,464,495	

【支出】

費目	予算	決算	備考
郵送料	15,000	10,666	庶務・会計に係る通信費
ニュースレター 発行費	20,000	2,624	陸の水の送料など
要旨印刷費	48,000	2,643	第 17 回研究発表会要旨集製本文具
事業費	200,000	250,000	総会等補助、研究助成 150,000 円など
論文集発行費	400,000	451,569	論文集印刷代、送料
雑費	10,000	2,592	振込手数料など
予備費	396,783	106,279	学会での書籍購入 100 冊、幹事交通費
総計	1,089,783	826,373	次年繰越金 638,122 円

・次年事業計画

1. 論文集（No.69）の発行（7 月頃を予定、投稿を随時募集）
2. ニュースレター「陸の水」発行：年間 4 号（No.70,71,72,73）
3. サマースクールの開催（8 月）
4. 談話会の開催（年間 2 回、春・秋に実施）
5. 見学会の開催（秋か、研究会にて実施）
6. 総会・研究発表会の開催：例年 2 月開催
7. 一般研究助成（15 万円以内で 5 件以内を助成）
8. 社会貢献（2015 年は環境影響調査を実施予定）
9. 活動報告（HP の更新、研究発表会の要旨の公開）

・予算については以下の通りです。

【収入】

費目	予算	備考
前年繰越金	638,122	
当年会費収入	184,000	会員 93 名（特別会員 1、一般・学生会員 91、家族会員 2、団体会員 1）
過年度分会費収入	64,000	前年（2014 年）の会費徴収
雑収入	150,000	論文集販売（50,000 円）、別刷り代（100,000 円）、教科書販売
寄付金	0	
利息	10	
総計	1,036,132	

【支出】

費目	予算	備考
郵送料	15,000	庶務・会計に係る通信費
ニュースレター 発行費	35,000	陸の水の送料、封筒・切手代など
要旨印刷費	15,000	第 18 回研究発表会要旨集印刷代（外部委託なし）
事業費	500,000	総会等補助、一般研究助成、談話会等の講師謝礼、社会貢献など
論文集発行費	400,000	論文集印刷代、送料
雑費	10,000	振込み手数料など
予備費	61,132	幹事会交通費など
総計	1,036,132	

・次年度役員体制（任期 2 年間）

2015 年は、3 名の幹事が新たに就任します（*：新役員）。

会長： 谷口 智雅（三重大大学）
 幹事： 白金 晶子（豊田市矢作川研究所）・広報（HP 管理）
 幹事： *田代 喬（名古屋大学）・社会貢献担当
 幹事： *戸田 三津夫（静岡大学）・陸の水ニュースレター編集
 幹事： 中村 早耶香（名古屋女子大学）・会計
 幹事： 新實 智嗣（株式会社 水地盤研究所）・事業担当
 幹事： *宮川 幸雄（土木研究所自然共生研究センター）・庶務

会計監査： 内田 朝子（豊田市矢作川研究所）

（※ 幹事は五十音順）

退任幹事のご挨拶

3月限りで任期をむかえた幹事による挨拶を掲載させていただきます。

私が初めて支部会に参加したのは、岐阜県の郡上で行われた研究発表会のことでした。

卒業論文の発表をさせて頂きましたが、とても緊張して発表途中も自分が何を言っているのか分からないような状態でした。質疑応答も上手く答えられず、私の担当教授でありました寺井先生の援護射撃をありがたく頂いたのを覚えております。

幹事のお話を頂いたのはだいたい今から5年前のことで、私の先輩であります梅村さん（現在は大八木さん）にお誘いを受けました。私に務まるか不安でしたが、大変お世話になった先輩への恩返しと思い、引き受けることに致しました。このような幹事の仕事は初めての経験で、また後回し癖という私の悪癖と重なって、他の幹事の皆様には大変ご迷惑をお掛け致しました。

支部会に関わって10年余りですが、私なりの支部会の魅力は普段行けない・行かないところに行けることです。毎年開催しておりますサマースクールや研究発表会・見学会はプチ旅行気分楽しんでおりました。皆様も軽い旅行気分では支部会の行事を楽しんで頂ければ幸いです。

最後になりましたが、お世話になりました幹事の皆様、支部会の皆様に感謝を記して退任の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。また、これからもどうぞよろしくお願い致します。

岡田トマト農園 岡田 直己

職場の同僚だった森照貴さんが陸の水ニュースレターを担当しており、ぜひ後任にと「熱烈な」推薦を受けたのが始まりでした。文章を書くのがそれほど得意ではない私が、こうして8回もニュースレターの記事の執筆と編集をやり遂げたかと思うと、感慨深いものがあります。続けてこられたのも、くじけそうな時に優しく手を差し伸べてくださる方があったからで、本当に感謝しています。

おかげさまで、他のニュースレターを見る目が優しくなり、誤字脱字を見ても「大変なんだろうな～」と思えるようになりました。また、幹事を務める中で多くの方に出会えたのも大きな実りでした。豪快な「飲み友達」が増えたのは言うまでもありません。

ニュースレターの編集だけでなく、サマーセミナーの講師もさせて頂きまして、よい思い出となりました。参加者の方の楽しそうな顔も嬉しかったですし、ニュースレターの読者から感想を頂いたのも感激でした。

幹事は退任いたしますが、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

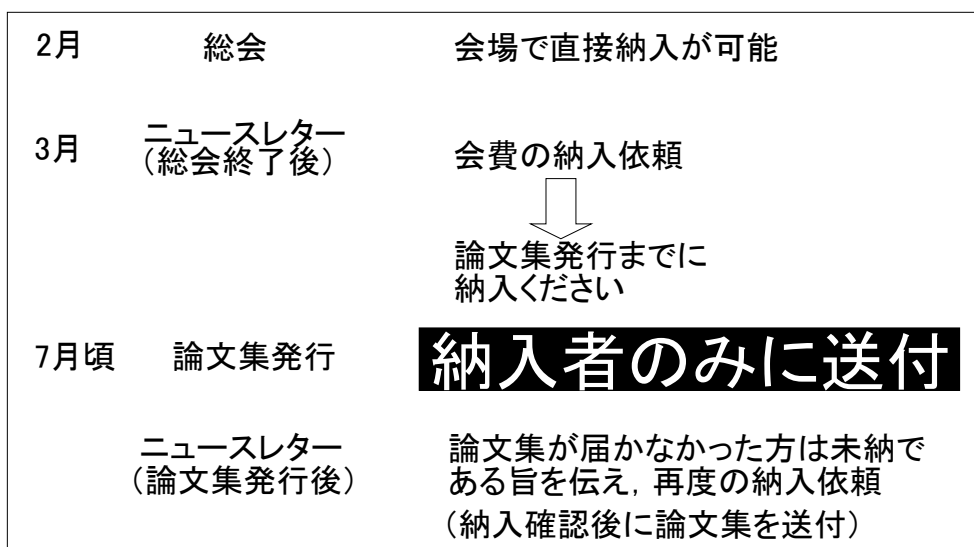
（独）土木研究所 自然共生研究センター 小野田 幸生

会費納入について

会費の納入が確認できた会員にのみ、論文集を送付することが総会で承認されました。論文集の発行が7月頃に予定されておりますので、研究発表会・総会（2月）に直接納入をされなかった会員の方は、7月までに会費納入をお願いします。ただ、忘れてしまうことも考えられますので、早期納入をお願いします。

論文集発行後のニュースレターで「論文集が届かなかった会員の方は未納である」ことを伝え、再度会費の納入をお願いすることになります。論文集の発行までに納入が間に合わなかった方は、納入された際にその旨事務局

（taniguchi@human.mie-u.ac.jp，担当：谷口）までご連絡ください。論文集は、会費の納入確認後に送付されます。会の運営を支えるものですので、お忘れなく納入いただきますようお願いいたします。



会費の納入方法について

納入方法として、下記ゆうちょ銀行への振込、もしくは談話会や研究発表会などでの直接的なお支払いも受け付けております。ゆうちょ口座から通帳かカードで ATM 振込をご利用いただくと手数料無料となります（ATM 送金料金が無料となるサービス期間は平成 26 年 9 月 30 日までだそうです）。会費納入状況が不明な場合は事務局までご照会ください。2 年度分の会費が未納の方は、規約に従い、翌年度には自動的に退会となりますのでご承知おきください。その際も、未納会費 2 年分のお支払いをお願いしております。

年会費：一般 2,000 円、学生（大学生以上）1,000 円、高校生以下は無料、
団体 4,000 円、家族 3,000 円

振込先が変わりましたので、ご注意ください！

< ゆうちょ銀行からお振込みの場合 >

記号：12120-2 番号：73385891

名前：日本陸水学会東海支部会

< 他の金融機関からお振込みの場合 >

銀行名：ゆうちょ銀行

店名：二一八（読み ニイチハチ） 店番：2 1 8

預金種目：普通預金 口座番号：7338589

カナ氏名（受取人名）：ニホンリクスイガツカイトウカイシブカイ

入会および退会の手続きについて

総会で、入退会の手続きを以下のようにルール化することが確認されました。

■ 入会手続き

① 当会の HP にある入会申込書に必要事項を記入

② 申込先は会長宛て※とする（その後、担当幹事へ情報を共有）

■ 退会手続き

① 退会する旨、会長宛て※に連絡（その後、担当幹事へ情報を共有）

3 月は学生の方が卒業されるので、教員の方は特にご配慮をお願いします。

※2015 年は、谷口智雅会長（taniguchi@human.mie-u.ac.jp）まで

会員の現状

会員 93 名（特別会員 1、一般・学生会員 91、家族会員 2、団体会員 1）

■ 入会者は以下の方々です（会員番号順、敬称略）。

宮川幸雄，藤森文臣

■ 退会者は以下の方々です（会員番号順、敬称略）。

伊佐治知明，石田晴子，千藤克彦，渡辺栄次，伊藤守，小鹿亨，石川雅量，
杉野明日香，今井克彦，毛受一博，古畑寿，野澤利治，鈴木杏彩，大島啓，
佐藤利行，小川光寛，北村淳一，足立守，森照貴，陳淑珮，吉鶴靖則，赤
塚徹志，杉浦逸美，黒宮梨奈，佐々木香純 以上

（編集後記）

職場の中庭では、紅色の梅が咲き誇っています。暖かい日が多くなり春を感じられる今日この頃です。本号では、研究助成のお知らせを掲載しました。知り合いの方に紹介頂くとともに、学生さんなどからの積極的なご応募お待ちしております。いよいよ御岳山の研究も始まります。それに関連した談話会も開催されますので、ぜひ参加頂ければと思います。

（小野田 幸生）